

基本情報						
博士課程前期課程			博士課程後期課程			
学修言語：日本語		学修言語：英語				
授与される学位	修士（国際関係学）	授与される学位	Master of Arts in International Relations			
プログラム	国際関係学プログラム	プログラム	Global International Relations Program			
入学時期	春学期（4月）あるいは 秋学期（9月）	入学時期	春学期（4月）あるいは 秋学期（9月）			
標準修業年限	2年間	標準修業年限	2年間			
				授与される学位		
				博士（国際関係学）／ Doctor of Philosophy		
				入学時期		
				春semester（4月）あるいは 秋semester（9月）		
				学修言語		
				日本語あるいは英語		
				標準修業年限		
				3年間		

奨学金（2020年度実績）

博士課程前期課程		
入試時に受給が決まる奨学金	対象	金額（おおよそ）
1年次対象成績優秀者奨学金	私費入試で合格した者のうち、成績優秀者	Ⅰ種→500,000円 Ⅱ種→400,000円 Ⅲ種→300,000円 Ⅳ種→200,000円 Ⅴ種→100,000円 ※いずれも入学初年度のみ ※事前申込必要なし。 ※受給資格者には合格後通知書を 送付します。 ※入学者の最大25%
留学生100%減免奨学金	私費入試で合格した留学生のうち、成績優秀者	標準修業年限100%授業料減免
入学後、在学生対象のおもな奨学金・補助金	対象	金額（おおよそ）
留学生20%減免奨学金	私費入試で合格した留学生全員	標準修業年限20%授業料減免
JASSO 渡日前奨学金	私費留学生のうち、出願から合格まで一度も「渡日」することなく入学した者全員	月々 48,000円 ※4月入学者1年間、9月入学者半年間
2年次対象成績優秀者奨学金	私費学生で、第3セメスター在学者のうち、1年次に優秀な成績を修めた者	Ⅰ種→20万円の授業料減免 Ⅱ種→10万円の授業料減免 ※2年次のみ

博士課程後期課程		
入試時に受給が決まる奨学金	対象	金額（おおよそ）
留学生100%減免奨学金	私費入試で合格した留学生のうち、成績優秀者	標準修業年限100%授業料減免
入学後、在学生対象のおもな奨学金・補助金	対象	金額（おおよそ）
留学生20%減免奨学金	私費入試で合格した留学生全員	標準修業年限20%授業料減免
JASSO 渡日本前奨学金	私費留学生のうち、受験のために一度も「渡日」することなく合格した者全員	月々 48,000円 ※4月入学者1年間、9月入学者半年間

＊現時点の情報であり、変更の可能性があります。別途お問い合わせください。



立 命 館 大 学 大 学 院 国 際 関 係 研 究 科



立命館大学大学院 国際関係研究科

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL: 075-465-1211 E-mail: ir-adm@st.ritsumeui.ac.jp



国際関係研究科ウェブサイト
www.ritsumeui.ac.jp/gsir/

新たなカリキュラムでの出発

2020年に世界中を覆った「コロナ」禍は、大学にとっては教育・研究機関としての意義と役割を改めて考え直す機会にもなりました。そのような中、立命館大学大学院国際関係研究科では、2021年度から新たなカリキュラムの提供を開始します。その大きな特徴として、英語による科目を大幅に増やしたことが挙げられます。その理由は、まず近年、アジア地域のみならずアフリカ、中東、中南米、そして欧米からの留学生が増加したことへの対応があります。さらに、日本語で研究を志す院生にも、将来のキャリアのために英語運用能力の向上を期待しているからです。本研究科の修了生の進路はさまざまです。公的機関、民間企業、NGOなどの市民社会グループ、そして大学をはじめとする教育・研究機関など、それぞれが学んだことと自らの希望をもとに、本研究科を将来へ踏み出すステップとしてきました。新たなカリキュラムは、さらに院生のみなさんの可能性を広げる助けになるはずです。我々は、講義やゼミはもちろん、大学内外における多種多様な機会を提供することにより、本研究科で学ぶ院生の可能性を拡げ、日本国内のみならずグローバルな場所・レベルで活躍をされることを願っています。そして、そのために我々教員、事務スタッフは協力を惜しみません。ただ、そのような機会を活かせるか否か、言葉を変えれば本研究科の大学院生であることを、あるいは将来、本研究科の一員であったことに大きな価値を見出せるかは、まさにみなさん一人一人の意識の持ち方と努力があった上でのことでもあります。大学院は学部以上に自分で考え主体的に動くことが求められます。そのことを自覚し、そして努力を続けることを厭わない人たちが、世界中から本研究科を志望されることを願っています。



立命館大学大学院
国際関係研究科長
嶋田 晴行

立命館大学の歴史

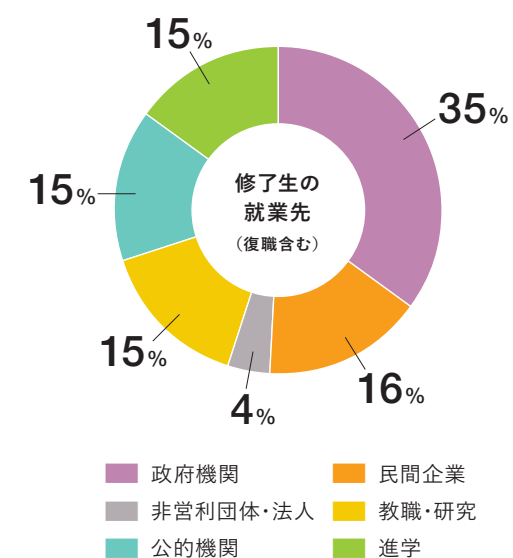
1869（明治2）年、新しい時代を担う若者を育てるため、西園寺公望が私塾「立命館」を創始し、1900（明治33）年、文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、その意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を創立しました。2020年に120周年を迎える立命館学園が、西園寺の自由主義・国際主義の精神を建学の精神「自由と清新」として、今日まで受け継いできました。「立命」というのは中国の古典「孟子」の盡心章（じんしんしょう）の一節にある「夭寿（ようじゅ）貳（たが）わず、身を修めて以て之れを俟（ま）つは、命を立つる所以（ゆえん）なり」から採ったもので、「人間には、若死にする人もあれば、長生きする人もあるが、それはすべて天命で決められていることである。だから生きている間はわが身の修養（勉強）に努めて天命を待つのが人間の本分を全うすることなのである」という考えです。「立命館」は人間がその本分をまっとうするための場所を意味しています。



WHY Ritsumei? WHY Kyoto?

なぜなら…以下のことが可能になるからです

- 国際政治、国際経済・開発、文化・社会・メディアが横断的に学べるプログラム
- 常時30を越える国・地域の学生と一緒に学ぶ国内留学経験
- 世界で最も訪れたい都市に選ばれた京都での生活

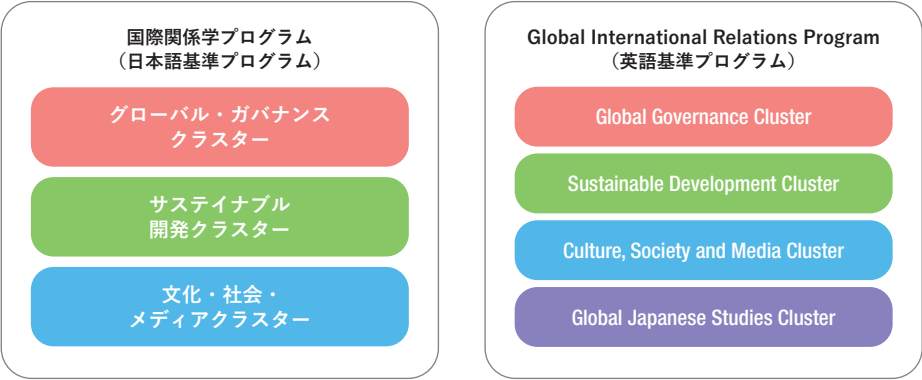




現代の世界においては、一国では対応できない国境を越えた課題が深刻化しています。森林破壊や海洋汚染、越境犯罪、テロリズム、自然災害、感染症、移民、難民などがその一例であり、年々、国・地域といったレベルでの関係構築および協力的な取り組みが欠かせなくなっています。そのため、こういった国際的な諸問題を解決するエキスパートが強く必要とされています。その専門家となるために必要なのが、政治、経済/開発、文化・社会・メディア、更に地域にまで渡り、横断的に学修する国際関係学です。

日本語基準プログラム / 英語基準プログラム

本研究科の博士課程前期課程は、日本語と英語という学修言語で分かれる2つのプログラムで構成されています。また特徴の一つは、ディスプリンに関し、緩やかな研究領域(科目群)を示すクラスターという概念を用いていることにあります。



グローバル・ガバナンスクラスター

国際政治、国際法、国際関係史、などを学問領域・理論と実践・実証からバランスよく学び、加えて西洋、非西洋での平和に関する諸課題を総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。



サステナブル開発クラスター

国際協力論、経済理論、経済学というディスプリンと、政策評価や立案に関わる実践系科目をバランスよく配置し、先進国および途上国における持続可能な繁栄を追求することをテーマに、総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

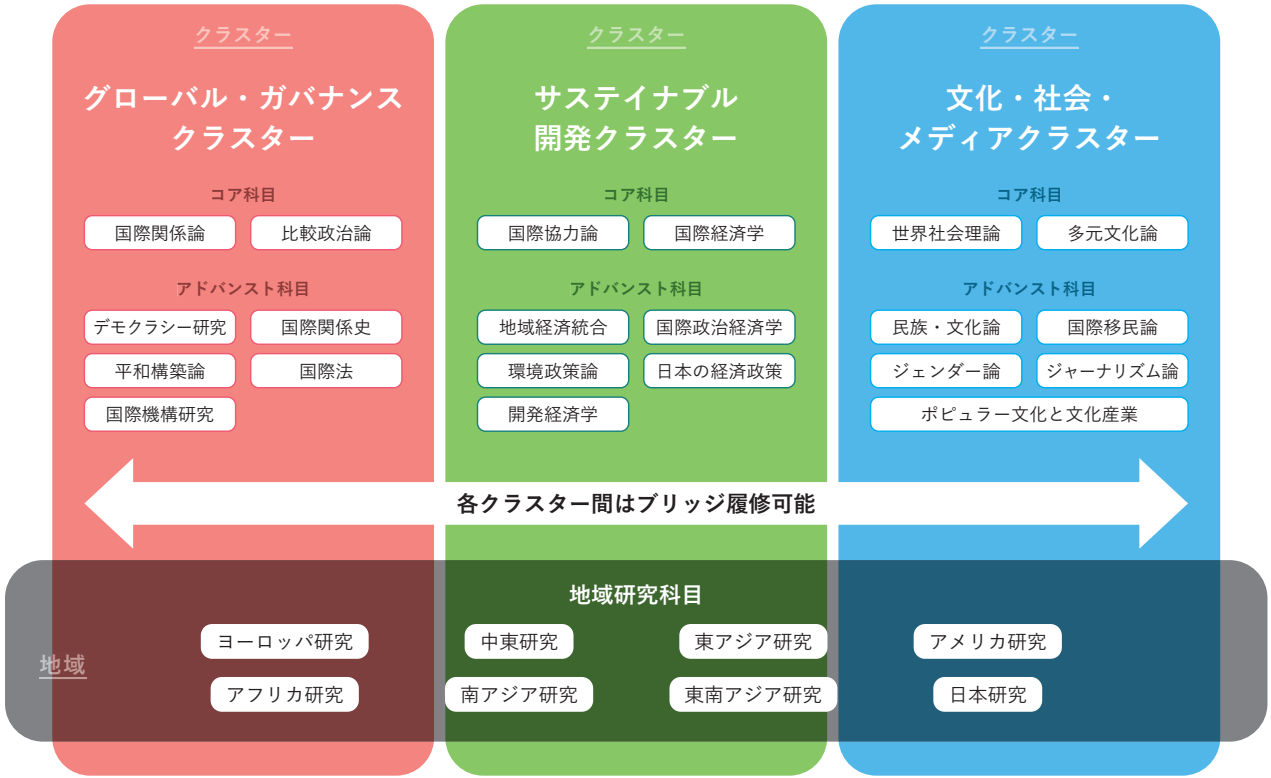


文化・社会・メディアクラスター

グローバル化という文脈に即しながら文化理論と社会理論の基礎を学び、メディア・文化研究の主要な概念を網羅しています。人種や民族からメディア・ポピュラー文化と文化産業に至るまでの学習を総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。



国際関係学プログラム（日本語基準プログラム）



その他の開設科目はWEBサイトをご覧ください。

クロス履修システム

所属プログラムとは異なる言語（英語または日本語）で開講される科目の履修にチャレンジすることができる特徴的な制度があります。



博士課程前期課程 2年間の履修・修士論文執筆までのスケジュール

	修士1年目												修士2年目											
4月入学者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月上旬	12月	1月下旬	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月中旬	11月	12月	1月下旬	2月上・中旬	3月下旬
年間の行事予定	入学、ゼミ(指導教員)の決定、受講登録 研究指導計画書の提出					M1研究レポート提出		進捗報告会		M1論文提出				研究指導計画書の提出					最終報告会		修士論文提出		口頭試問	修士学位授与「修士(国際関係学)」取得
9月入学者	9月10月						4月	6月上旬		7月中旬			10月						5月中旬			7月中旬	7月下旬	9月
科目履修論文指導	(コア・アドバンスト科目などの履修)(ゼミでの個別指導)												(基幹科目・プログラム科目の履修)(修士論文執筆のための指導)											
推奨される活動・履修	Professional Training/Research Training																							
	DMDP(8月~翌年7月頃)																							
	国内・海外インターンシップ(1回生夏休み頃から2回生の夏休みまでの間に希望者は国内・海外インターンシップ(1~6ヶ月)に参加)																							

論文指導体制

大学院生は第一セメスターから最終セメスターまで、いずれかのゼミに所属し、毎週のゼミの中で指導教員より指導を受けます。修了までのプロセスは、修士1回生時の終わりにM1論文を、修了時に修士論文を、執筆するという流れです。M1論文と修士論文提出前には、指導教員と副指導教員による研究進捗報告会が実施され、執筆完成に向けての建設的な意見交換や指摘を受ける有効な機会が本研究科の研究指導システムとして設けられています。そのため、修士論文執筆に不安を抱える方をサポートする丁寧な仕組みが整っています。



履修モデル

履修モデル：Aさんの研究テーマ

アフリカの紛争解決に対する文化・経済が持つ影響

アフリカの紛争解決には国際政治の役割が重要だと考えたAさんは、グローバル・ガバナンスクラスターの国際政治理論や紛争解決に関わる授業を中心としながら、民族問題や国際経済については別クラスターの授業を履修し、より包括的な分析視角の修得を目指しました。

[Aさんの科目履修計画]

1st semester	2nd semester	3rd semester	4th semester
特別演習	特別演習	特別演習	特別演習
国際関係論	比較政治論	国際移民論	ジャーナリズム論
アフリカ研究	平和構築論	国際機構研究	
国際機関セミナー	民族・文化論	デモクラシー研究	
アカデミック・ライティング (日本語)	リサーチメソッド・ リサーチデザイン	Professional Training: International Cooperation	

履修モデル：Bさんの研究テーマ

再生可能エネルギーによる二国間外交

再生可能エネルギー外交の実務家を目指すBさんは、サステイナブル開発クラスターから環境と経済の授業を中心に履修すると同時に、別クラスターの授業から日本語や統計的手法を学習し、現場で必要になる知識の修得と問題構築力の発展を目指しました。

[Bさんの科目履修計画]

1st semester	2nd semester	3rd semester	4th semester
特別演習	特別演習	特別演習	特別演習
国際協力論	比較政治論	開発経済学	国際法
東南アジア研究	環境政策論	国際政治経済学	
国際機関セミナー	国際経済学	地域経済統合	
アカデミック・ライティング (日本語)	リサーチメソッド・ リサーチデザイン	南アジア研究	

履修モデル：Cさんの研究テーマ

欧州と中東の移民問題から見る多文化社会

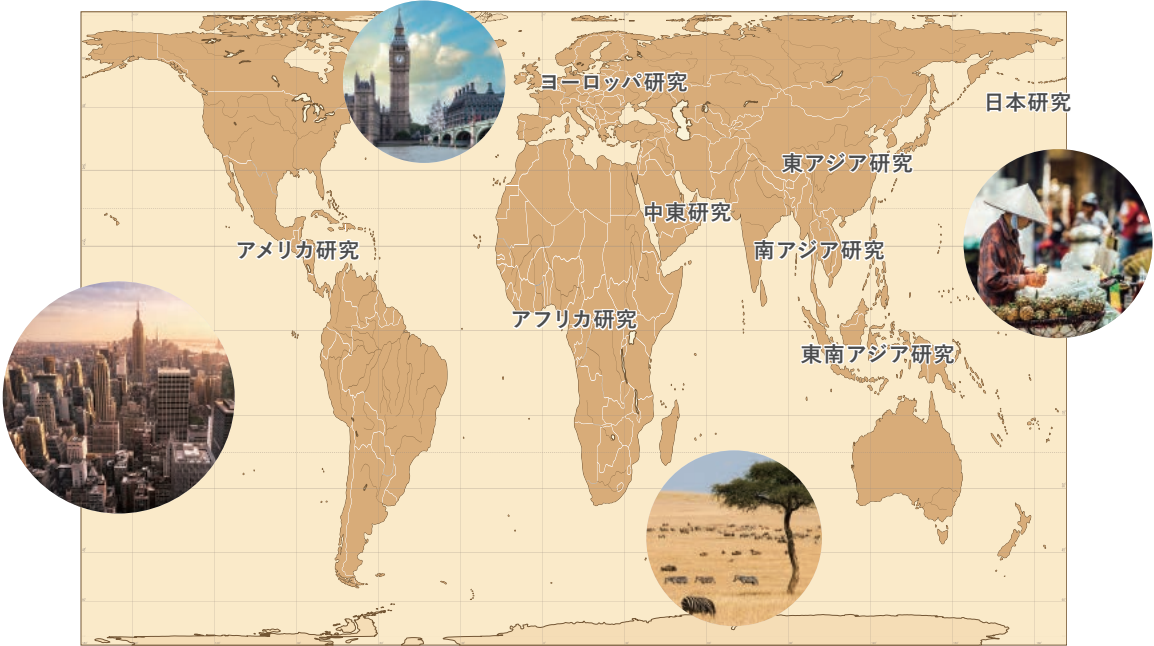
Cさんは、現在の移民問題が報道に大きく左右されていると考え、移民問題に揺れる欧州と中東との関係を軸に文化・社会・メディアクラスターの授業を履修しつつ、グローバル・ガバナンスクラスターの授業から国際政治を学び、重層的に社会現象を考察する方法を探索しました。

[Cさんの科目履修計画]

1st semester	2nd semester	3rd semester	4th semester
特別演習	特別演習	特別演習	特別演習
世界社会理論	多元文化論	民族・文化論	ジェンダー論
デモクラシー研究	ジャーナリズム論	国際移民論	
中東研究	ヨーロッパ研究	国際人権法	
アカデミック・ライティング (日本語)	リサーチメソッド・ リサーチデザイン	Research Training	

世界各地を網羅した豊富な地域研究を提供

本研究科は、狭義の国際関係学という枠組みを超え、政治、経済、文化・社会・メディアという縦軸に、地域研究という横軸が走り、多様な領域を横断する極めて学際的な研究と教育を指向している点が大きな特徴です。本研究科では、他の大学院には見られない、グローバル化によりダイナミックに変動している現在の国際関係情勢と連動した教育・研究を展開すべく、ディシプリン・地域研究という横断の学びの魅力を持つカリキュラムを展開しています。



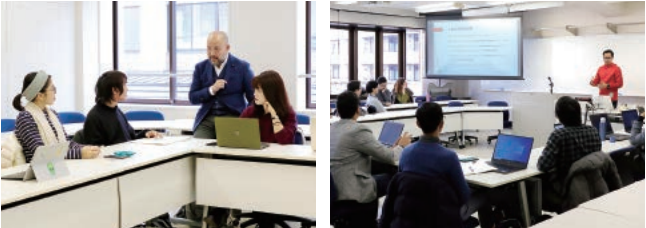
地域研究科目	[日本語で開講される科目] 日本研究、東アジア研究、東南アジア研究、 南アジア研究、アフリカ研究、中東研究、 アメリカ研究、ヨーロッパ研究、地域研究特講	[英語で開講される科目] East Asian Studies、South East Asian Studies、South Asian Studies、 European Studies、African Studies、Middle Eastern studies、 American Studies、Special Lecture on Area Studies
--------	---	--

実践力養成と外国人留学生との多様な学び

英語で開講されるトレーニング系科目により、実践力を身につけると同時に外国人留学生との共修を実現します。

Professional Training ※複数クラス開講
将来、国際開発・国際協力分野や外交分野への就職を目指す院生を対象に、現場経験を持つ実務家による理論と実践双方から学ぶ科目を提供します。

Research Training
国際関係研究科所属教員が中心となり展開されている研究プロジェクトが多く存在します。こうしたプロジェクトに大学院生が参画し、研究代表者や科目担当教員等からの指導を受けることを通して、国際関係分野に関連する研究の進め方や、共同研究・ワークショップ・シンポジウムの運営方法などについて学ぶ科目を提供します。



国際機関・進路支援プログラム
～国連経験者の監修によるプログラム～
立命館大学大学院国際関係研究科では、国際機関等の進路を実現する人材の育成を大きな目標の一つとしています。そのため、国際機関への進路就職を目指す方に対しては、講義から実務に至るまでの理論と実践の場を提供します。



指導教員

高い研究力を誇るバイリンガルの教員陣が、充実した講義と論文指導を行い、研究進捗報告会から修士論文執筆・進路支援までの体系的な指導を行います。

国際色豊かでマルチリンガルな教員陣

世界中の様々な地域から、多様な経験を持った教員が集まっています。教員は研究者としても活躍し、多くが国際的な出版業績や講演経験を持ち、国境を超えた共同研究を行っています。また国連をはじめとする国際機関、外務省、JICAなどの政府機関、大手メディア企業での経験を持つ実務家教員が揃っています。



Introducing Our Professors



大山 真司 教授 「カルチュラル・スタディーズ、メディア研究、文化産業・クリエイティブ産業研究、批判的ブランド研究」

日本に加えて東アジアの文脈で、ブランドや広告などの宣伝文化、デジタルメディア、文化・クリエイティブ産業、文化のグローバル化などを、カルチュラル・スタディーズの視点から理論かつ批判的に捉えて、研究や講義をしています。



岩田 拓夫 教授 「比較政治、アフリカ地域研究」

研究地域はサブサハラ・アフリカです。主な研究テーマは、民主化、地方分権化、国境、アジア・アフリカ関係、政治風刺と笑い、など。人々の暮らしとの接点を意識しながら、政治・国際関係の理解を試みてきました。



鳥山 純子 准教授 「ジェンダー論、中東ジェンダー研究、文化人類学」

日常生活の地平から、エジプトやレバノンといった中東地域の暮らしと生き方について研究をしています。格差や人の痛みに迫るジェンダー学と、人間の在り方を総体的に考える文化人類学を手掛かりにしています。



全教員紹介はウェブサイトへ。
www.ritsumeai.ac.jp/gsir/faculty/

DMDP 最短2年で2つの大学院の修士号

留学プログラム紹介（DMDPを活用した海外大学院修士学位の取得）

DMDP（Dual Master's Degree Program）を利用し、立命館大学大学院に所属しながら提携する海外の大学院に1年間留学することにより、最短2年間で2つの大学院の修士号を同時に取得することが可能です。グローバル化する国際社会で活躍する人材を育てる仕組みを持った画期的なプログラムです。普通に留学する場合に比べ、学費の負担は相当軽いものとなります。奨学金制度によるサポートも大きな魅力です。



アメリカン大学
アメリカ合衆国 | ワシントンD.C.



イースト・アングリア大学
英国 | ノリッジ



応募資格、スケジュール、費用など
詳しい情報はWebページをご覧ください。
www.ritsumeai.ac.jp/gsir/education/dmdp/

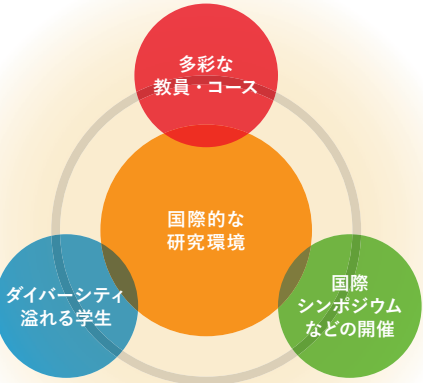
博士課程後期課程

社会の高度化とともに、高度な学識を持った人材が要請されています。博士学位取得者は、研究者として、大学およびそれ以外の研究機関、国際機関などへの就職が期待されます。本研究科博士課程後期課程では、一人あたり複数の専任教員（主担当・副担当）が指導を行う複数指導体制をとり、指導教員以外の教員から研究に対して助言を受けられる機会を設けています。また、立命館大学全体の取り組みとして、博士課程後期課程に在籍する院生のキャリア形成を支援するとともに、キャリアパスの構築を図るために、博士キャリアパス推進室を設置しています。院生の皆さんが修了後社会で活躍するために必要な情報提供やスキルアップの支援を行っています。

- 1. 院生主体で運営する研究セミナー、教員が主催するワークショップなどを企画して、院生による研究発表機会の提供。
- 2. 学内外の研究者や他大学院生との他流試合の実施



共同研究室



研究所や研究センターと連携したカリキュラムを提供

国際関係研究科の教員が中心的役割を果たしている学内の研究機関（国際地域研究所に加えて中東イスラーム研究センター、東アジア平和安全保障プログラム、平和ミュージアム、クリエイティブメディア研究センター等）と研究科教学を有機的・体系的にタイアップし、大学院教学および院生研究の高度化を目指します。このような高度な研究環境を提供し、国際関係研究科が掲げる人材育成目的のひとつである博士課程後期課程の進学や将来の研究者となりうる人材を養成します。

国際地域研究所
www.ritsumeai.ac.jp/research/iiras/

中東イスラーム研究センター
www.cmeis-ritsumeai.net/

東アジア平和協力研究センター
en.ritsumeai.ac.jp/research/ceapc/

立命館大学平和ミュージアム
www.ritsumeikan-wp-museum.jp/



国際地域研究所ウェブサイト



立命館大学平和ミュージアム

キャンパスで国際現場の最前線にふれる

国際社会で活躍されている客員教授や特別招聘教授を招聘した授業を開講しています。さらに国内外から著名な研究者を招聘し、研究報告・フォーラムを実施しています。本研究科では、このような国際関係学の最前戦に触れる機会を多数提供しています。

[最近の主なゲストスピーカー]

2019

- デニ・ムクウェゲ医師（ノーベル平和賞受賞）記念講演会を開催
- アデラ・ラズ氏（国連アフガニスタン常任代表）によるシンポジウムを開催
- 明石康 氏（元国連事務次長）による特別講義を開催

2018

- ケント・カルダー教授（ジョンス・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院ライシャワー東アジア研究所所長）による「Circles of Compensation 日本の経済成長とグローバルゼーションへの提言」の特別講演を開催
- 国連安全保障理事会・北朝鮮制裁委員会専門家パネル元委員の古川勝久氏による講演会「朝鮮半島をめぐる国際関係と日本」を開催
- 丁世鉉元韓国統一部長官による記念講演会「北朝鮮の核問題の新局面とその後の展望」を開催
- 秋葉剛男氏（外務事務次官）による学術シンポジウム「世界の変容、国際関係学の針路」を開催

2017

- 松本太氏（元駐シリア担当臨時代理大使兼シリア特別調整官）による特別講演を開催
- クリストファー・ヒル氏（六者協議 米国元代表）が国際シンポジウム「Where Are We Headed, War or Peace?」に登壇
- 中村滋 氏（元駐マレーシア大使）による特別講義「日本のODAの変遷と構造」を実施

進路・就職

豊富なキャリアサポートで、国際機関、開発協力分野、民間企業の海外部門など国際社会を舞台に活躍する人材を輩出しています。

博士課程前期課程の主な進路・就職先

公務員

外務省専門職員
外務省在外公館派遣員
防衛省
国家公務員Ⅱ種
大阪府人事委員会
札幌市人事委員会
兵庫県人事委員会
広島市人事委員会
滋賀県教育委員会

建設(開発)コンサルタント

日本工営(株)
パシフィックコンサルタンツ(株)
千代田化工建設(株)
八千代エンジニアリング(株)
(株)NJS

総合商社

三井物産(株)
伊藤忠商事(株)
双日(株)
三菱商事(株)

金融

(株)日本政策金融公庫
(株)三菱UFJ銀行
(株)三井住友銀行
三井住友カード(株)
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
SMBC日興証券(株)

情報サービス

日本アイ・ピー・エム(株)
日本マイクロソフト(株)
ヤフー(株)
楽天(株)

マスコミ

一般社団法人共同通信社
(株)中日新聞社
日本放送協会
(株)読売新聞西部本社
(株)講談社
(株)毎日新聞社
(株)読売新聞大阪本社
(株)リクルートホールディングス
ブルームバーク

製造

大日本スクリーン製造
ヤマハ発動機(株)
(株)クボタ
コベルコ建機(株)
日東電工(株)
(株)日立製作所
パナソニック(株)
日本サムスン(株)
川崎重工業(株)
麒麟麦酒(株)
(株)コーセー
ダイキン工業(株)
富士ゼロックス(株)
三菱自動車工業(株)
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
アストラゼネカ(株)

国際分野

独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)
独立行政法人国際協力機構(JICA)
独立行政法人国際交流基金
公益財団法人京都市国際交流協会
国際交流サービス協会
公益財団法人加藤朝雄国際奨学財団
(特定)関西NGO協議会
公益財団法人国際労務管理財団
公益財団法人ジョイセフ
公益財団法人こども教育支援財団
(特定)アジア日本相互交流センター
日本赤十字社

海運

ハパックロイドジャパン(株)
(株)東洋信号通信社

キャリアセンターウェブサイト

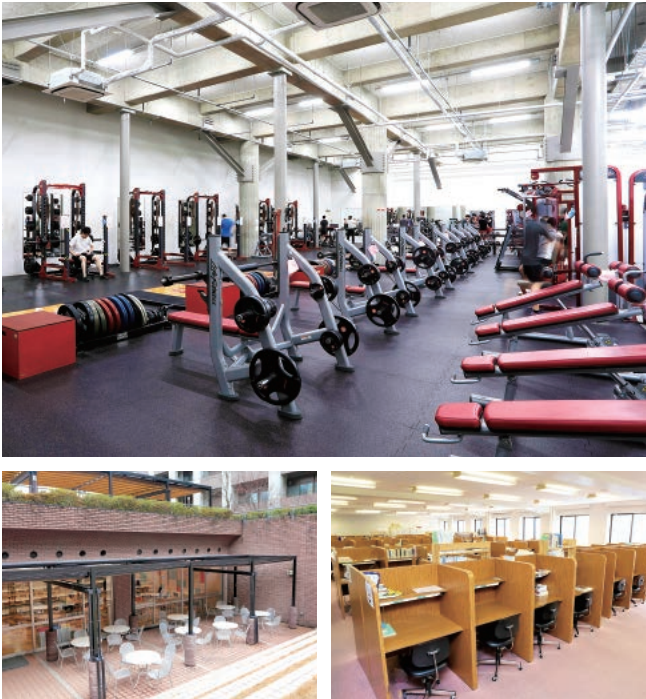
www.ritsumei.ac.jp/career/

キャンパスライフ 世界文化遺産が3件もある最良の環境

立命館大学大学院国際関係研究科は、多様な人文・社会科学系研究科が集まる衣笠キャンパスにあります。衣笠キャンパスは古都・京都の歴史と文化が息づく京都市の北部にあり、自転車で行ける距離に、世界中から訪れてくる観光客を魅了する金閣寺、竜安寺、仁和寺といったユネスコ世界遺産の仏教寺院や、学生の味方である「学問の神」を祀る北野天満宮などの有名な神社があります。その一方、衣笠キャンパスには、日本や京都に憧れて世界中から多様な背景を持つ学生たちが集い、とくに1992年に西日本で最初の国際関係を学ぶ大学院として設立された国際関係研究科は、安全保障、開発環境、文化社会などに関する様々な国際問題について、お互いの情報や意見を発信・交換し合える、際立って国際色豊かな研究環境が整っています。キャンパス周辺で、お茶、陶芸、禅瞑想といった体験を通じて、日本の伝統文化に対する学びを深めるとともに、キャンパスでは、国際経験豊富な教員の指導のもと、最先端の国際事情について個性豊かな同級生たちと励まし合いながら研究に励みます。そんな素敵なキャンパスライフを送ってみませんか。本学スタッフ一同、あなたの大学院研究をサポートすることを楽しみにしています。

Student Voice

- 留学生も多く在籍する国際的な環境の中で、先輩や同僚との関わりが多くなる。
- 教室等への移動が楽。(衣笠キャンパス内全体も徒歩可能距離)
- カフェテリアが充実していてキャンパス内に6か所もある
- ジムも無料で利用可能



全学生は当キャンパス内の最新式設備のジムを無料で使用可能です。その他、院生共同研究室ではデスクが与えられ、アカデミックラウンジなども使用可能。施設面でも充実した環境。

キャンパスロケーション 京都市

立命館大学のある京都市は、日本の古き伝統とグローバル社会の先端な現代性をあわせ持つ、人口約150万人の大都市です。この都市は、京都府の県庁所在地であり、794年から1868年まで、天皇の住まう日本の首都でした。市内には、無数の仏教寺院、神社、そのほかの歴史的に貴重な建造物が残っており、日本を代表する観光都市となっています。このため、京都市は、アメリカの大手旅行雑誌「トラベル+レジャー」の読者投票による「世界の人気観光都市ランキング」の上位の常連で、2014、2015年には世界1位となりました。しかし、京都市は観光だけではなくありません。任天堂、京セラ、島津製作所といったハイテク企業が多く活躍し、日本の製造業を支えています。また、京都市には日本で最も多くのノーベル賞受賞者を輩出してきた京都大学をはじめとする38の大学・短期大学が所在し、同市は「大学のまち・京都21プラン」をもとに、大学を中核とする高度な学術研究都市の基盤作りを進めてきました。

また、京都市は環境の先進都市でもあります。同市は、地球温暖化対策の京都議定書の発祥地であり、1997年12月には地球温暖化防止京都会議が開かれました。また、「誰一人取り残さない」社会を目指す国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に関する「SDGs先進度」総合ランキングにおいて、京都市は、総エネルギー消費量の削減等の地球温暖化対策や、ごみの大幅な削減等の取組みが高く評価されて、2018年と2019年の総合評価で全国815市区中の1位となりました。さらに、森記念財団都市戦略研究所が、東京を除く日本の主要な72都市の特性を6つの分野に即して総合的に評価した「日本の都市特性評価」においても、京都市は、「文化・交流」や「環境」の分野で高い評価を獲得し、2018年、2019年、2020年と3年連続で1位になっています。このように、京都市は経済、社会・文化、環境のバランスが取れた日本有数の大都市であり、都市の持続可能な発展のモデルケースとして、国内外から注目されています。



入試について

入試についての詳しい情報、スケジュールについては、国際関係研究科のウェブサイトをご覧ください。国際関係学部事務室では、国際関係研究科への進学について、適宜相談を受け付けています。ウェブサイトはもちろん、事務室にもお気軽にお越しください。



www.ritsumei.ac.jp/gsir/admission/